

都市型立体公園

00 池袋というマチ

住宅地やオフィス、商業、芸術といった様々な機能を池袋では木造住宅の密集による地震時の延焼や老朽化による倒壊の危険性など、防災面での社会的問題も見られる一方で、かねてから交通の結節点として栄えた歴史がある。そして現在、次世代型交通手段であるLRTの計画構想や駅周辺の主要4公園の整備によって、観光地として生まれ変わろうとしている。

01 マチの結節点

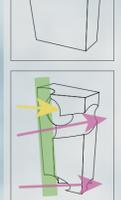
LRTの駅周辺には新たに生まれ変わる公園はなく、商業ビルや娯楽施設が密集している。徒歩、自転車での移動が容易になったこの地域には地域住民や観光客が利用できる都市と人を繋ぐ結節点としての新しい場が必要だと考え、立体公園を計画する。

LRTとは従来よりも定時性や快適性を高めた次世代型交通手段である。LRTを導入することにより圏内の自動車流入を抑制し、徒歩、自転車での移動が容易になる。また、近年観光地でシェアサイクルの需要が高まっており、導入する都市も増加している。計画地を池袋のシェアサイクルの拠点とし、池袋周辺4公園にも駐輪場を設置することで公園・交通の結節点として池袋周辺と繋がり、地域住民から観光客までが利用できる池袋の新たな都市インフラの中心となる。



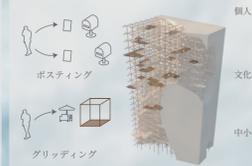
02 立体公園のカタチ

都市空間の象徴である高層ビルを想定し、敷地境界をそのまま上げたvolumeを考える。



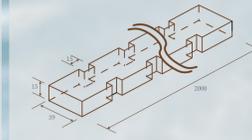
03 立体公園でできること -グリiddingという仕組み-

様々な情報がインターネット上に溢れるこの時代で、今後、現実世界での体験を通じたプロモーションは絶対に重要視される。木グリッドで構成された公園には、商用利用できるグリッドが30箇所あり、出展者はグリッド毎に遊歩道で借り受け、各グリッドにキオスク型の仮設物を自ら作り、販売・展示・プロモーションの場を構成する。グリッド毎の資料は安価で、ポストにチラシをポストイングする様に、グリッドにキオスクをグリiddingでき、定期的に新しく多種多様なキオスクがポップアップする。

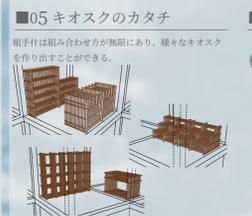


04 キオスクの作りかた

「木造住宅の密集地である木密地域の空き家の解体」が進むと多くの廃材が生まれる。廃材からキオスクを作ることによって木密地域が抱える課題の解決に繋がる。仮設店舗の製作には、工具がらず人力で組立・解体ができる「組手」を規格として用いる。



木密地域の空き家の住居用面積の木造住宅1軒(35㎡)を解体したとき、耐久性・安全性を考慮すると、約350本の組手材の廃材が産出される。



材長 (m)	断面寸法 (mm)
2.0 - 3.0	105×105, 120×120, 135×135
3.0 - 5.0	105×105, 105×120, 120×120
1.8 - 4.0	30×90, 30×105, 30×120, 45×45, 45×60, 45×75, 45×90, 45×105

木密地域の空き家の住居用面積の木造住宅1軒(35㎡)を解体したとき、耐久性・安全性を考慮すると、約350本の組手材の廃材が産出される。

グリiddingの条件を「組手材でキオスクを作り、最終的に解体までを行うこと」とすることで、出展者の規模や人数等に問わず小規模から大規模まで様々なキオスクを計画でき、自由なプロモーションが行える。組手材は公園の一つのシンボルになることも、キオスクが変わるごとに公園の空間に変化をもたらす。

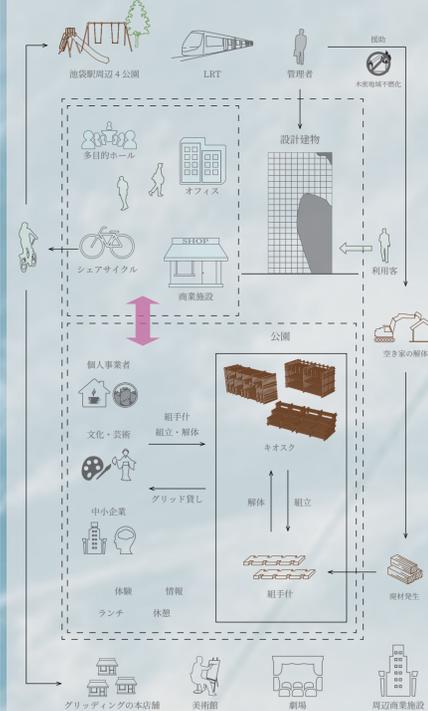
06 グリッドという単位

組手材は組み合わせ方が無限にあり、様々なキオスクを作り出すことができる。

池袋のテナント別床面積23.4mの場合 4000円/週
→171円/週*grid
→985円/週*grid

料金設定
・1グリッドのみを使用する場合は1週目以降は無料
・2週目以上使用する場合、2週目以降は985円/週
・2グリッド以降は1週目から985円/grid*週

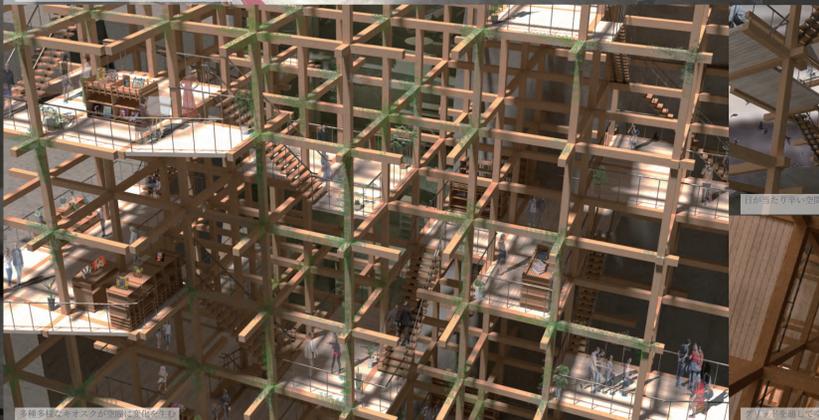
07 マチに生まれる公園という結節点



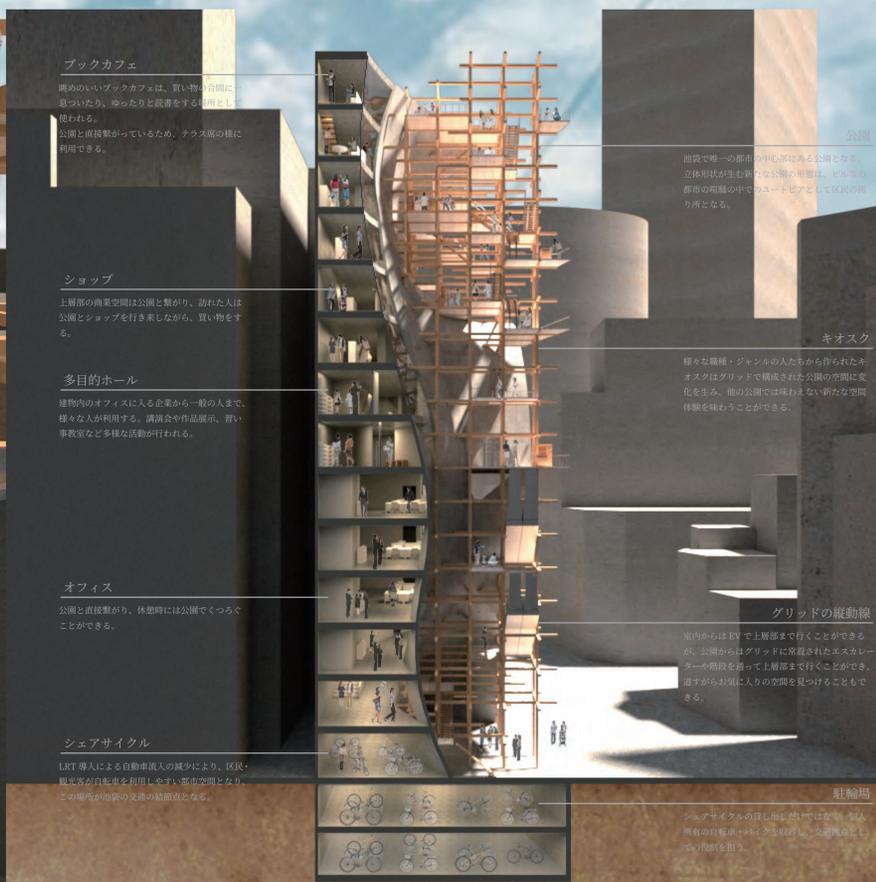
立体公園をグリッド内蔵の内部から



ショップ内部から公園のアクティビティが垣間見える



多様な用途で活用可能なアクティビティホール



ブックカフェ
読者の多いブックカフェは、買い物や合間に読む本、ゆったりと読書をする場所として使われる。
公園と直接繋がっているため、テラス席の様に利用できる。

ショップ
上層部の商業空間は公園と繋がりが、訪れた人は公園とショップを行き来しながら、買い物をする。

多目的ホール
建物内のオフィスに入る企業から一般の人まで、様々な人が利用する。講演会や作品展示、習い事教室など多様な活動が行われる。

オフィス
公園と直接繋がっているため、休憩時には公園でつらなことができる。

シェアサイクル
LRT 専入による自動車流入の減少により、区民・観光客が自転車を利用しやすい都市空間となり、この場所が池袋の交通の結節点となる。

公園
池袋で唯一の都市中心部にある公園となる。立体形状が生む新たな公園の形態は、ビル等の都市の肌層の中でよく目立つて区民の憩い場所となる。

キオスク
様々な職種・ジャンルの人たちから作られたキオスクはグリッドで構成された公園の空間に変化を生み、他の公園では味わえない新たな空間体験を味わうことができる。

グリッドの縦動線
室内からはEVで上層部まで行くことができるが、公園からはグリッドに階段されたエスカレーターや階段を登って上層部まで行くことができ、道すがらお気に入りの空間を見つけることもできる。

駐輪場
シェアサイクルの貸し出しだけでなく、個人所有の自転車・バイクを保管し、交通手段としての役割を担う。



多様な用途で活用可能なアクティビティホール

100㎡程度の空間はくつろぎ空間として機能する

100㎡程度の空間はくつろぎ空間として機能する

100㎡程度の空間はくつろぎ空間として機能する

100㎡程度の空間はくつろぎ空間として機能する